

“絆”きずな

訪問リハビリテーション・フォーラムに参加して

今回、フォーラムにスタッフとして参加させていただきました。当日は会場設営や入場案内を主に行い、同じ志を持つスタッフ同士の連携の素早さ、段取りの良さには驚きました。

今回は「地域をつなぐ在宅リハビリテーションの役割」というテーマのもと、国として今後のリハ職に求められてくることや翌日から使える実践的な事例報告でした。在宅での関わりは、クライアントの生活を中心に周りの支える力がどれだけ目的・目標・ゴールに向かい同じベクトルを向くことが重要だと思っています。そして、皆が同じ方向に向くためのコーディネート力・マネジメント能力を培っているのが在宅に関わるセラピストであると感じています。今回は具体的な事例からマネジメントを行う方法等の貴重な意見を聞くことができ、非常に有意義な時間となりました。

リハビリ推進センター株式会社 作業療法士 飯室 達也

南から始まる訪問リハビリテーションの魅力⑦ in佐賀県

私は「水掛け3年」というキーワードを大切にしている。盆栽の心を掴むには3年の水やりが大切だ、という意味らしい。以前、庭に出て盆栽の手入れができるようになりた、と要望のあった訪問リハ利用者から教わった言葉だ。石の上にも3年という句と似ていることが印象的で何事も極めるまでには辛抱が必要なのだと感じた。訪問リハでは利用者の生き様に共感し、その人の人生や思(想)いに触れることで様々なことを学べるところが魅力だ。そして、僅かながらも生活に寄り添うことで得た経験は、また次の利用者との関係性を築くきっかけとなる。「水掛け3年」・・・今日もある利用者との話題づくりでキーワードとなりそうだ。

佐賀県訪問リハ・地域リーダー 理学療法士 土井 秀幸
介護老人保健施設ユートピアしゃくなげ訪問リハビリテーション事業所

＜訪問リハ振興財団よりお知らせ＞ 原稿募集

日頃より一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団の活動にご協力いただきありがとうございます。再度、広報誌“絆”の原稿を募集します。テーマは、昨年度より皆さまにご協力いただき、成果が報告されている訪問リハビリテーションにおける『活動と参加』の事例です。訪問リハビリテーションを利用したことで、地域資源などに移行して、サービスが終了したケースや、自主的な活動が定着し、笑顔あふれる生活を過ごしているケースなど。生き生きとした生活が送れるようになった事例を共有し、更に多くの方に知っていただきたいと考えています。皆さまの投稿をお待ちしております。

文字数：300～350文字＋活動風景の写真

投稿先：一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団 事務局

募集期間：随時受付 Email：yokoyama@hvrpf.jp

＜お知らせ＞

就職説明会開催！

一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団 宮古・山田訪問リハビリステーションゆずる

平成28年10月1日(土)15:00～17:00

アイーナ7階702 (いわて県民情報交流センター)

利用者様が増え、また、介護予防事業・研修も需要が増えてきており、増員を行います。

宮城県気仙沼市、福島県南相馬市でも同時募集しております。

就職を希望される方、この機会にぜひご連絡ください。

〒108-0023 東京都港区芝浦3-5-39 田町イーストウィング6F

TEL:03-6453-7370 FAX:03-5765-5177 Email: guidance@hvrpf.jp